

組織学・発生学	実習
---------	----

《担当者名》○教授 / 建部 廣明takebeh@ 助教 / 岸本 有里y-seki035@
非常勤講師 / 小林 秀樹 非常勤講師 / 西 一幸

【概要】

人体を構成する諸器官の構造を理解するため組織標本を観察し、各組織の構造を学ぶ。

【学修目標】

- 上皮組織の構造を説明する。
- 結合組織の細胞および線維成分を説明する。
- 軟骨組織を分類し、特徴を説明する。
- 骨組織の構造および構成する細胞を説明する。
- 血液細胞を説明する。
- 動脈と静脈の構造を説明する。
- 神経組織の構造を説明する。
- 骨格筋、心筋、平滑筋の構造を説明する。
- 消化器系器官の構造を説明する。
- 呼吸器系器官、泌尿器系器官、リンパ性器官の構造を説明する。
- 生殖系器官、内分泌系器官、皮膚の構造を説明する。
- 歯の研磨標本で見られる構造を説明する。
- 歯髄および歯周組織の構造を説明する。
- 歯の形成過程を説明する。
- 唾液線の構造を説明する。
- 舌の構造を説明する。
- 顎関節の構造を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	< 組織学実習について > 1. 実習開始にあたっての注意事項 < 上皮組織-1 >	実習のやり方、注意事項について理解する。 バーチャルスライドの使用法を理解する。 上皮組織を形態学的に分類し、機能との関連について理解する。 「入門組織学」P.29-P.44 (A-3-1-1-1)	建部 廣明 岸本 有里
3) 4	< 上皮組織-2 >	外分泌腺の構造を理解する。 「入門組織学」P.29-P.44 (A-3-1-1-3)	建部 廣明 岸本 有里
5) 6	< 支持組織-1 > 1. 結合組織 2. 軟骨組織	結合組織を構成する細胞と基質を理解する。 軟骨組織を形態学的に分類し、その特徴について理解する。 「入門組織学」P.45-P.61 (A-3-1-1-2, -3)	建部 廣明 岸本 有里
7) 8	< 支持組織-2 > 3. 骨組織	骨の構造と構成する細胞を理解する。 骨の発生様式を理解する。 「入門組織学」P.61-67 (A-3-1-2-1, -3-5)	建部 廣明 岸本 有里
9) 10	< 神経組織 > < 筋組織 >	神経細胞と神経膠細胞の構造を理解する。 筋組織を分類し、その特徴を理解する。 「入門組織学」P.69-P.101 (A-3-1-3-1, A-3-1-5-6)	建部 廣明 岸本 有里
11) 12	< 血液・血管 >	血球細胞を分類し、その特徴と機能を理解する。 血管の構造を理解する。 「入門組織学」P.104-P.131 (A-3-1-4-3, -5)	建部 廣明 岸本 有里
13))	< 消化器系 > 1. 胃	消化器系の構造を理解する。 「入門組織学」P.147-P.198	建部 廣明 岸本 有里

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
14	2. 大腸 3. 肝臓 4. 膵臓	(A-3-1-7-1, -2)	
15) 16	<呼吸器系> 1. 気管 2. 肺 <泌尿器系> 1. 腎臓 <リンパ性器官> 1. リンパ節	呼吸器官の構造を理解する。 泌尿器官の構造を理解する。 リンパ性器官の構造を理解する。 「入門組織学」P.134-P.146, P.199-P.226 (A-3-1-4-6, A-3-1-8-1, -2, A-3-1-10-1)	建部 廣明 岸本 有里
17) 18	<生殖系> 1. 精巣 2. 卵巣 <内分泌系> 1. 甲状腺 2. 上皮小体 <皮膚> 1. 手指	生殖器官の構造を理解する。 内分泌器官の構造を理解する。 皮膚の構造を理解する。 「入門組織学」P.227-P.317 (A-3-1-11-1, A-3-1-9-1, -2, A-3-1-1-2)	建部 廣明 岸本 有里
19) 20	<歯の研磨標本> 1. エナメル質 2. 象牙質 3. セメント質	研磨標本作製法を説明する。 エナメル質にみられる構造を理解する。 研磨標本で象牙質とセメント質にみられる構造を理解する。 「口腔組織・発生学」P.38-P.110, P.141-P.149 (A-3-4-4)	建部 廣明 岸本 有里 西 一幸
21) 22	<歯と歯周組織> 1. 象牙質 2. 歯髄 3. 歯周組織	象牙質と歯髄の構造を理解する。 歯周組織(セメント質、歯根膜、歯槽骨、歯肉)の構造を理解する。 「口腔組織・発生学」P.79-P.186 (A-3-4-4, -5, -7)	建部 廣明 岸本 有里 西 一幸
23) 24	<歯の発生> 1. 歯冠形成 2. 歯根形成	歯冠形成(蕾状期、帽状期、鐘状期)を理解する。 歯根形成を理解する。 「口腔の発生と組織」P.41-P.63 (A-2-4-1)	建部 廣明 岸本 有里 小林 秀樹
25) 26	<唾液腺>	大唾液腺(耳下腺、顎下腺、舌下腺)の構造を理解する。 小唾液腺の構造を理解する。 「口腔組織・発生学」P.270-P.282 (A-3-3-6, -7)	建部 廣明 岸本 有里 小林 秀樹
27) 28	<舌> <顎関節>	舌乳頭と味蕾を理解する。 顎関節の構造を理解する。 「口腔組織・発生学」P.237-P.263, P.282-P.289 (A-3-3-3, A-3-2-8)	建部 廣明 岸本 有里
29) 30	<組織学実習のまとめ>	全身の組織構造について復習、総括する。	建部 廣明 岸本 有里

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

- 〔組織学・発生学(実習)評価方法〕実習試験(筆記試験)80%、スケッチおよびレポート(20%)
 ・〔組織学・発生学(講義)評価方法〕中間試験(筆記試験)50%、定期試験(筆記試験)50%
 ・〔判定法〕講義(80%)、実習(20%)の割合で評価し、60点以上を合格とする。

【教科書】

「入門組織学」改訂第2版 牛木 辰夫 著 南山堂

「口腔組織・発生学」第3版 前田 健康、網塚憲生、中村浩彰(編) 医歯薬出版

【参考書】

「カラーアトラス口腔組織発生学」第4版 磯川 桂太郎、下田 信治、山本 仁(編) わかば出版
「口腔の発生と組織」改訂4版 田畑 純 南山堂

【備考】

ノートPCを持ってくること。
該当する講義で使用した教科書、講義ノート、配布プリントを持ってくること。
色鉛筆を用意すること。

【学修の準備】

講義内容について、授業前に教科書の該当部分で予習する(45分)。
実習時に作成したスケッチと配布されたプリントを復習し、教科書を用いて疑問点を再確認する(45分)。

【ディプロマポリシー(学位授与方針との関連)】

DP1. 安全で質の高い歯科医療を提供するために必要な専門知識に基づく問題解決能力と患者ケアのための診療技能とからなる専門的実践能力、および医療・医学研究の発展のために必要な情報・科学技術の活用能力を身につけている。(専門知識に基づいた問題解決能力、患者ケアのための診療技能、情報・科学技術を生かす能力)
DP3. より安全で質の高い歯科医療を実践し社会に適応する医学を創造していくために生涯にわたって自己および他の医療者との研鑽を継続しながら医療者教育と学術・研究活動にも関与できる能力を身につけている。(科学的探究、生涯に渡ってともに学ぶ姿勢)

【実務経験】

建部 廣明(歯科医師)、岸本 有里(歯科医師)、小林 秀樹(歯科医師)、西 一幸(歯科医師)

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験をもとに、臨床に生きる講義を実践している。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している